

災害廃棄物対策に関する今後の検討の進め方について(骨子)(案)

1. 継続的な災害廃棄物処理の実績の蓄積及び検証

- 毎年のように非常災害が発生している状況を鑑み、全国各地で発生した非常災害における災害廃棄物処理に関する実績を継続的に蓄積する。
- 蓄積した事例を次の視点で検証し、課題を整理する。
 - ・ 災害の発生頻度の変化や激甚化の影響の検証
 - ・ 災害の発生場所による地域特性の影響の検証
 - ・ 生活様式や社会構造、産業構造等の変化による災害廃棄物の質の変化への影響の検証(太陽光パネルの普及、高齢者世帯や外国人世帯の増加など)
 - ・ 廃棄物処理及びリサイクル技術等の向上に伴う影響の検証
 - ・ 災害時における環境省や D.Waste-Net 等の体制の強化、拡充など
- これまでの災害廃棄物処理の実績と比較し特徴的な事例をアーカイブするとともに、教訓を抽出する。

2. 災害廃棄物対策のあり方に関する検討

- 蓄積した災害廃棄物処理に関する事例の検証結果を踏まえて、災害廃棄物の適正かつ円滑・迅速な処理を実施するために必要となる技術・システム、制度等を次の観点から検討する。
 - ・ 災害に備えた災害廃棄物対策推進・支援体制の充実
 - ・ 災害に備えた廃棄物処理施設の整備及び効果的な運用の推進
 - ・ 災害廃棄物対策に関する研究開発
- 検討した新たな災害廃棄物対策について FS 等により具体化する。

3. 関係者(自治体,民間等)との協働による災害廃棄物対応に関する検討

- 得られた教訓等に基づき、災害廃棄物対策に関して、関係省庁や地方自治体、民間事業者等との協働のあり方を検討する。
- 自治体による災害廃棄物対策の取組状況を継続的に調査し、自治体の支援策を検討する。また、指針やガイドライン等を活用した自治体への情報提供のあり方を検討する。
- 災害廃棄物対策に関連する民間事業者における災害対策の実施状況を継続的に確認し、民間事業者に対する情報提供のあり方を検討する。さらに、民間事業者に期待する事項をとりまとめ、実行力のある災害廃棄物処理態勢が構築できるよう連携体制を強化する。

以上